

子育て期女性の就労と家事の相互健康影響: 就労時間と喫煙、飲酒、運動

永谷 照男¹⁾、日比野 稔²⁾、近藤 康明³⁾

¹⁾名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学、²⁾元・名古屋セントラルクリニック、³⁾元・国際セントラルクリニック

【目的】「働くことと健康に関する調査研究、<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>」は子育て期女性を7年間追跡し、就労と家事が生活習慣や健康指標に与える相互影響の評価を目指す。今回、働く女性の就労時間と生活習慣（喫煙、飲酒、運動）との横断的関連を示す。資料は健診結果と面接問診による。

【対象者】同意を得た健診受診女性 5,736名のうち、25-49歳の有職者から「同意撤回者、対象資料欠損者、重複者、妊娠中、休職者」を除く 4,077名。

【就労時間】7群-1日就労時間と1週就労日数から1週就労時間を求め、 $\leq 15/16-25/26-35/36-40/41-45/46-50/50 <$ h/w、 $n=241/380/563/1,600/601/412/280$ に分類。7群の平均就労時間=10.7, 21.2, 32.7, 39.6, 44.3, 49.5 and 60.0 h/w。

【生活習慣】①喫煙：現喫煙、 $n=450$ (11.0%)、②飲酒：1週 alcohol量 ≥ 150 g、 $n=407$ (10.0%)、③運動：1週運動時間 ≥ 150 min、 $n=410$ (10.1%)。なお、②③は上位90%tile以上。

【共変量】5項目 1) 年齢：5群-5歳間隔、平均=38.1 歳。 2) 治療中疾病：2群-無/有、 $n=3,093/984$ 。 3) 配偶者：2群-無/有、 $n=2,162/1,915$ 。 4) 子：2群-無/有、 $n=2,700/1,377$ 。 5) 親と同居：2群-無/有、 $n=2,483/1,594$ 。

【統計処理】就労時間 7群で、①②③の該当者数/% を求め、次に全共変量を含む multivariate logistic regression analysis で①②③の odds ratio (OR) と 95%CI を算出 (reference: 36-40 h/w 群)。

【結果・考察】7群の①②③該当者%は、4.1, 7.4, 11.2, 10.6, 12.1, 15.3 and 15.7 %、7.9, 7.6, 8.0, 9.6, 12.8, 11.4 and 12.9 %、および 18.3, 12.1, 8.3, 8.7, 11.0, 10.7 and 8.6 %。対応する①②③の補正ORと95%CIは下図。就労時間が長いほど①②は多く、③は少ない。長時間就労は疾病 risk を上昇させる生活習慣を増加・持続させるかもしれない。働く女性の健康や生活習慣を考慮する資料となる。

【附】A) 名古屋市立大学 大学院医学研究科 医学系研究倫理審査委員会の承認あり (No. 359-4)。 B) 研究費：三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・センター、愛知健康増進財団の助成金と文科省科研費。 C) 国際セントラルクリニック (名古屋市中村区、理事長：内藤靖夫) の協力で実施。 D) COI: none。

Adjusted OR with 95% CI for current smoking, alcohol use ($150 \leq$ g/w) and exercise ($150 \leq$ m/w) according to working hours in 4,077 working women aged 25-49 ys.

